

看護部概要

2026



横浜市立脳卒中・神経脊椎センター看護部



Yokohama Brain and Spine Center

Department Of Nursing

【横浜市立病院医療憲章】

私たちは、病院を利用される市民の皆様が、質の高い
医療サービスを安心して安全に受けることができるよう
次の5項目を推進してまいります。

1. 患者さんの声を尊重し、相互の信頼関係に基づいた、
医療サービスを提供してまいります。
2. 患者さんの知る権利を尊重してまいります。
3. インフォームドコンセントを的確に行い、患者さんの自己決定権を
尊重してまいります。
4. 患者さんのプライバシーを尊重してまいります。
5. 医療に関して、高い倫理観、十分な知識、確かな技術を持ち、
さらなる研鑽に努めてまいります。

目次

1	病院理念	1
2	基本方針	1
3	組織図	2
第 2	看護部の概要	3
1	看護部理念	3
2	看護部方針	3
3	看護部中期目標	3
4	看護部の運営	4
5	看護体制	8
6	看護職員状況	9
7	看護方式と看護記録	10
8	部署紹介	11
9	継続教育	17
10	院外教育実績	22
11	看護部のリソース	24
12	学会・研修会等発表実績	33
13	院外講師等派遣実績	34
14	臨地実習受入れ実績	36
第 3	看護部の歩み	38

病院の概要

1 病院理念

安心・納得できる
安全・誠実で高度な
専門医療をめざします。

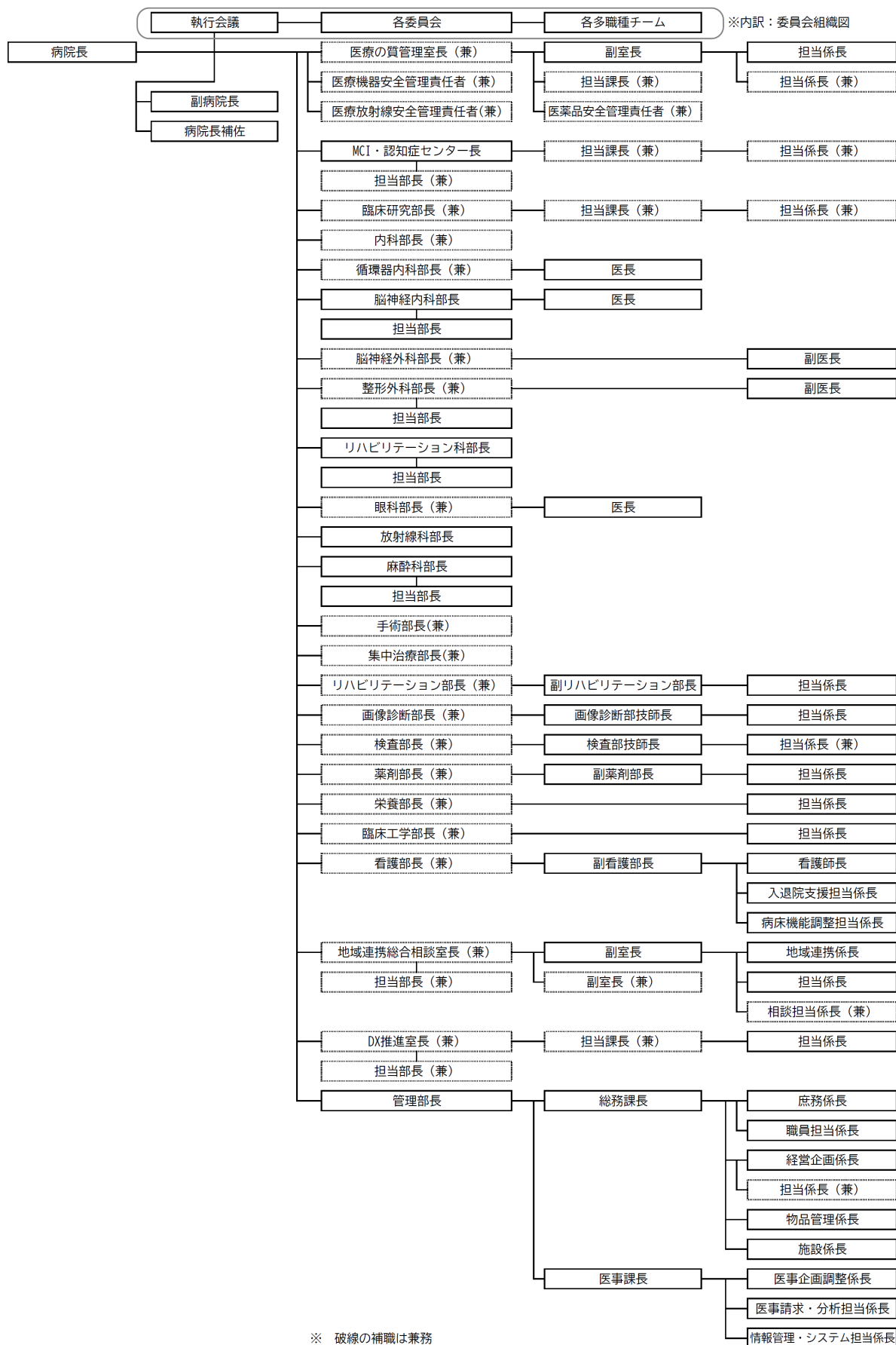
2 基本方針

- (1) 患者さんの人権を尊重した、チーム医療に取り組めます。
- (2) 質の高い、先進的な医療に取り組めます。
- (3) 急性期から回復期までの一貫した治療とリハビリテーションに取り組めます。
- (4) 地域の保健・医療機関との連携と、市民の健康増進に積極的に取り組めます。
- (5) 健全な病院経営に取り組めます。

3 組織図

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター 組織図

令和8年4月1日現在



第2 看護部の概要

1 看護部理念

私たちは

その人らしさを大切にした看護を実践し、
市民の「いのち」と「暮らし」を支えます。

2 看護部方針

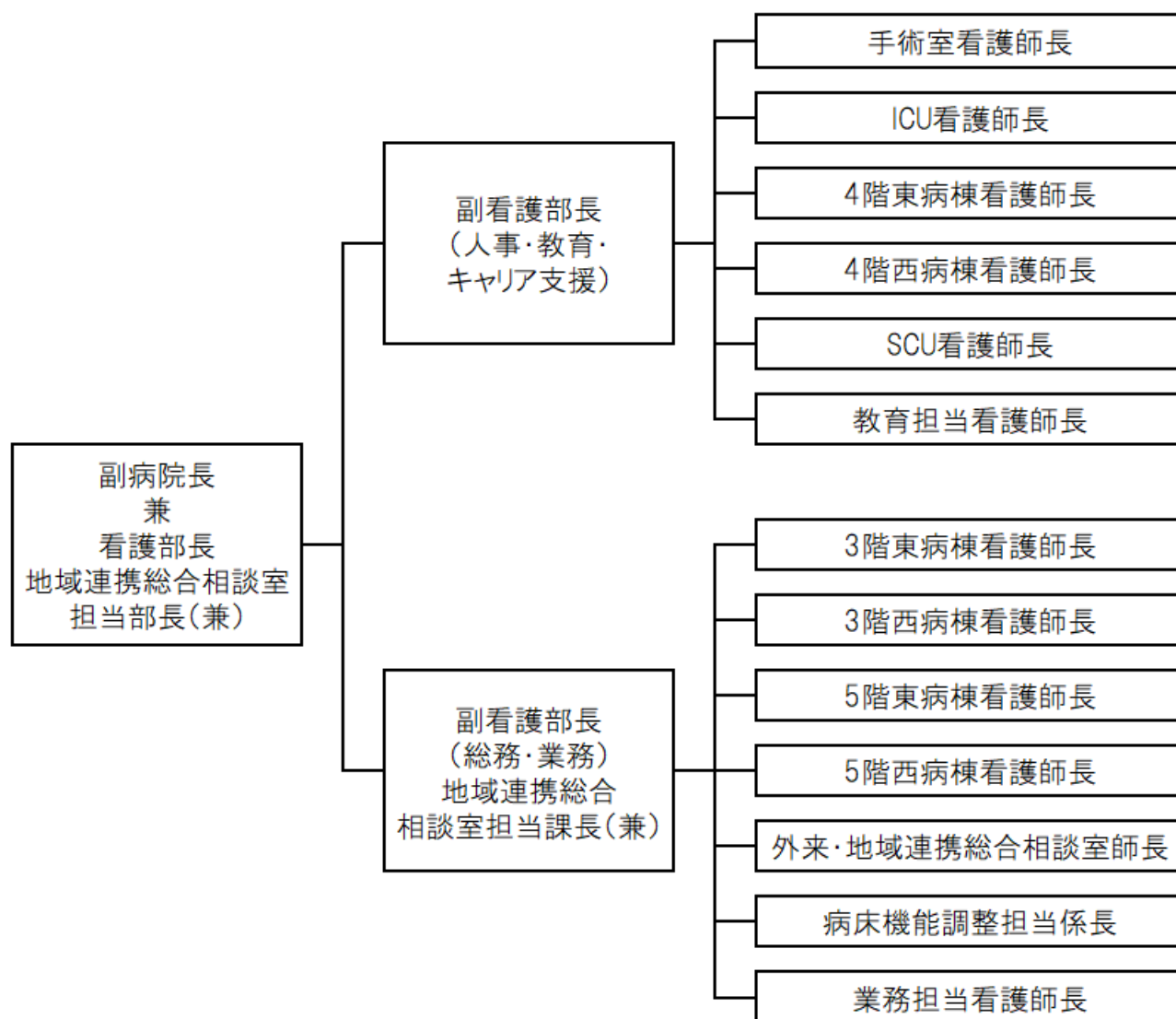
- (1) 市民のいのちと健康を守り、生活の再構築を積極的に支援します
- (2) 医療に求められる安全・公平・自尊の欲求を満たすサービスの提供に努めます
- (3) 看護実践活動と研究の活発化を図り、看護の専門性の追求と確立を目指します
- (4) 看護部門の立場から、積極的に病院経営に参画します
- (5) 看護ケアにとどまらず、総合的ケアサービスの推進を図ります

3 看護部中期目標

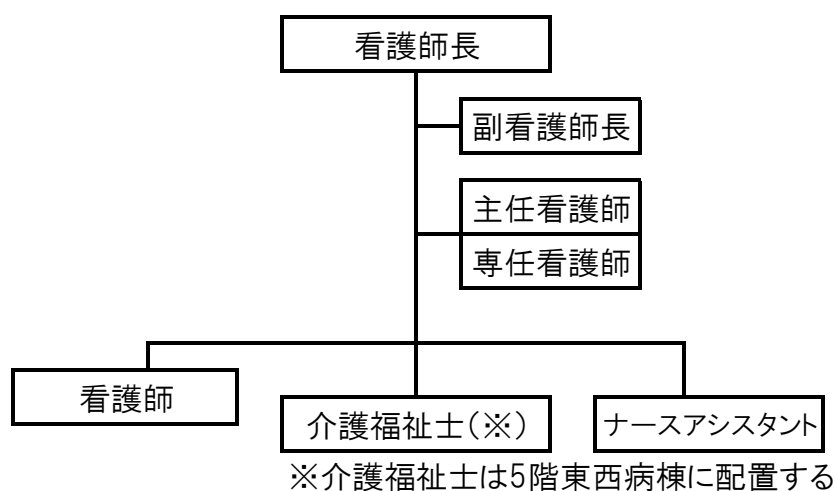
- (1) 質の高い看護の提供
- (2) 地域医療全体への貢献
- (3) 活力ある職場づくりのための働き方革新

4 看護部の運営

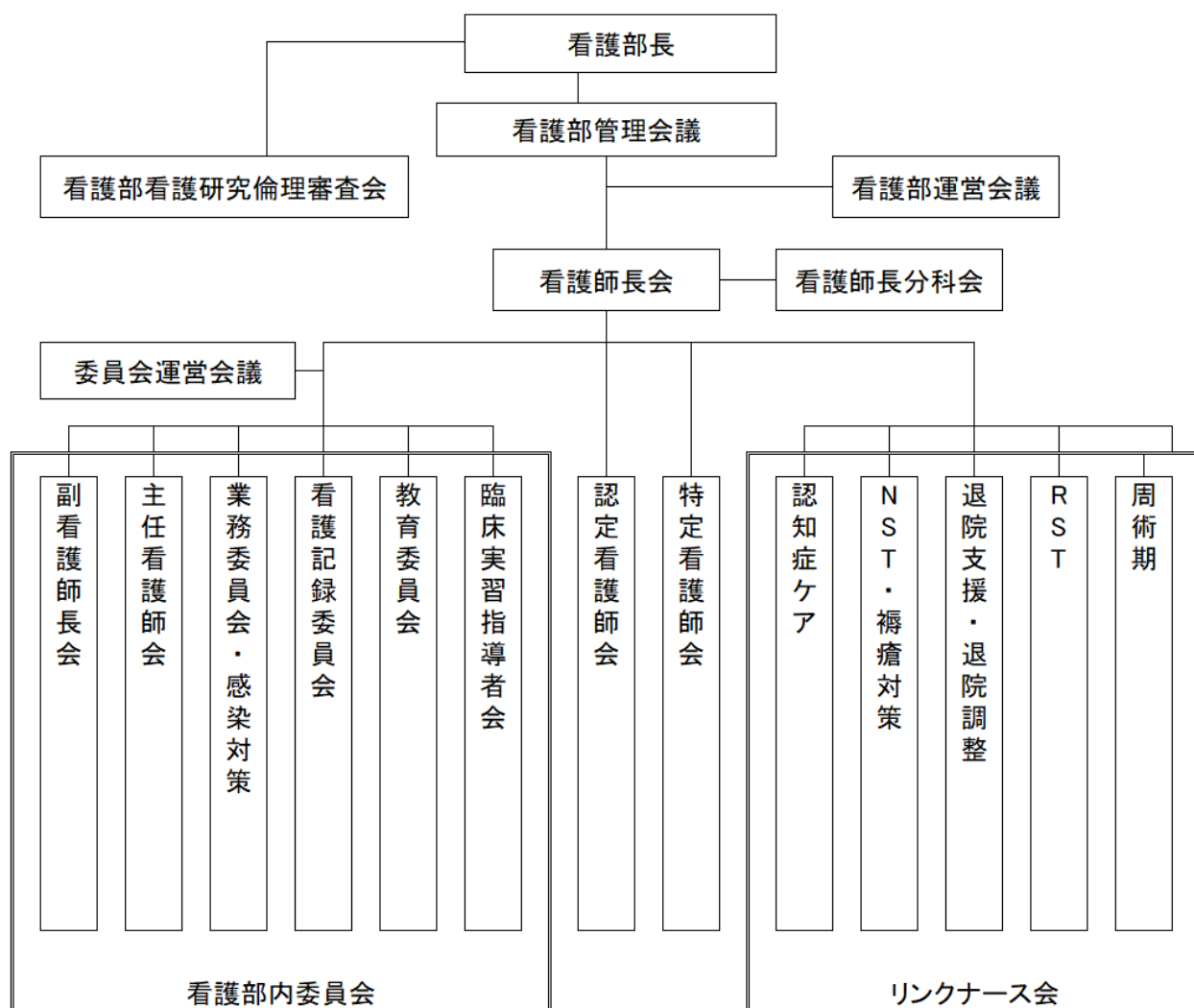
(1) 看護部組織(2026 年度)



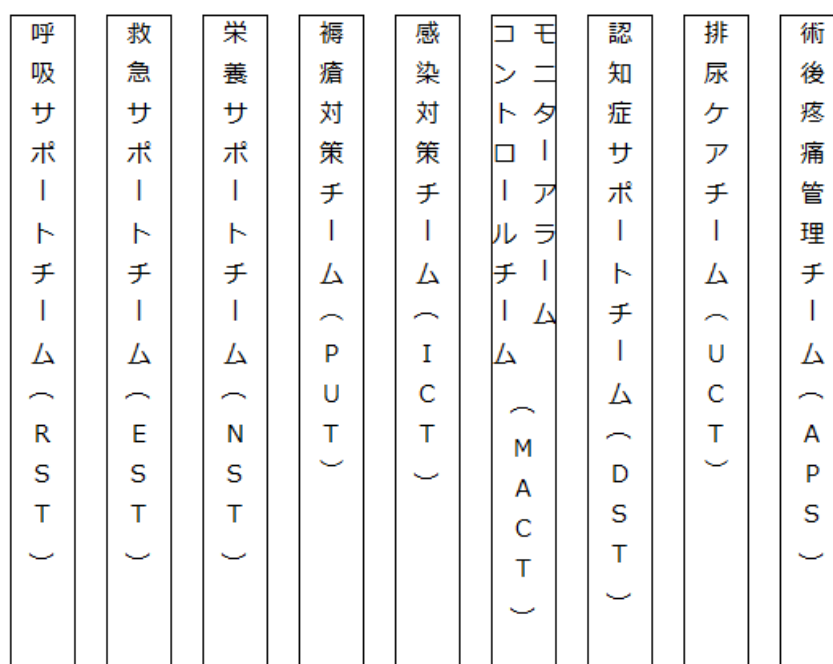
(2) 各部署組織図



(3) 看護部会議・委員会 運営図



看護師が活動しているチーム



(4) 会議・委員会等の機能と開催日程

名称	目的	出席者	回数
看護部管理会議	看護部及び病院の運営に関する事項について審議・決定する	看護部長・副看護部長	2回/月
看護部運営会議	看護部の管理運営に関する事項を審議し、看護部門の適正な運営を図る	看護部長・副看護部長 担当課長・看護師長(課長補佐)	2回/月
看護部委員会 運営会議	看護部の委員会に関する事項を審議し、委員会の適正な運営を図る	看護部長・副看護部長 各委員会委員長	3回/年
看護部看護研究 倫理審査会	看護研究について倫理的側面から研究対象者の安全と権利を保障するとともに、看護職員の倫理的感受性を高める	看護部長・副看護部長 教育担当看護師長・教育担当	1回/月
看護師長会	看護部の運営、病院運営上における必要事項の審議・決定を行うとともに、連絡・報告を行う	看護部長・副看護部長・担当係長・看護師長・医療安全管理室副室長・担当係長	2回/月
看護師長分科会	看護部運営上の課題について検討する	看護部長・副看護部長 看護師長 担当係長	2回/月
副看護師長会	看護部目標を達成するために看護部運営に関する課題を把握し、看護部の管理課題を解決する取り組みを推進する	看護師長・副看護師長	1回/月
主任看護師会	看護部目標を理解し、看護部目標を達成するために部署における取り組みを推進する	看護師長・主任看護師	1回/月
業務委員会・ 感染対策	看護サービスの質の確保を目的とし、安全で効率的な看護業務の遂行と改善に努めるとともに、ICTと連携し看護単位における感染対策を推進する	業務担当看護師長・看護師長・看護師	1回/月
教育委員会	看護の質を向上するための人材の育成と看護専門職として主体的に自己研鑽できる看護職員を育成する	教育担当看護師長・看護師長・ 看護師(教育担当者)・教育担当	2回/月
看護記録委員会	診療記録として法的根拠となる看護記録の質を高め、個別性のある看護を継続するために、看護過程に沿った記録に整え、看護記録内容の充実を図る	看護師長・看護師	1回/月
臨床実習 指導者会	看護職員が臨床実習指導に対して責任を持ち、実習生が実習目標を達成できるように指導体制の充実と指導者の質向上について検討し推進する	教育担当看護師長・看護師長・ 看護師・教育担当	3回/年
認定看護師会	活動報告および、各専門領域の学問的・実践的探究を行うとともに、看護の質向上に貢献できる活動を実践するための課題を検討する	看護部長・副看護部長・認定看護師	1回 /2ヵ月
特定看護師会	特定行為研修修了看護師による医療行為がチーム医療に貢献できる活動を実践するための課題を検討する	副看護部長・看護師長・特定看護師	3回/年

名 称	目 的	出席者	回 数
退院支援・退院調整 リンクナース会	入退院支援看護師と連携し、早期からの患者・家族のニーズや課題に応じた適切な退院時期・退院先決定の支援、および安定した療養生活を送るための退院調整を推進する	看護師長 看護師	1回 /2ヵ月
認知症ケア リンクナース会	DSTと連携し、個々の患者の背景をとらえた看護を実践する。また、部署における認知症ケアの実践能力向上を推進する	看護師長 認知症ケア認定看護師 看護師	1回 /2ヵ月
NST・褥瘡対策 リンクナース会	NSTおよび褥瘡対策チームと連携し、栄養管理、褥瘡対策に関する知識・技術の向上および各看護単位の栄養管理、褥瘡対策を推進する	看護師長 摂食・嚥下障害看護認定看護師 NST 専門療法士(看護師) 看護師	1回 /2ヵ月
周術期リンクナース 会	周術期における患者の安全・安心と回復を支えるため、入院前から退院後の社会復帰まで一貫した看護実践を推進する	看護師長 周麻酔期看護師、特定行為看護師 看護師	1回/月

院内チーム名称	ミーティング開催日時	ラウンド日等
呼吸サポートチーム(RST)	第2曜日 16:00 ~ 17:15	毎週月曜日 15:00 ~ 16:00
歯科口腔ラウンド		3・4階の病棟は1回/月、救急部門は2回/月 ICUは1回/週でラウンド
モニターアラームコントロール チーム(MACT)		第2・4金曜日 15:30 ~

感染対策チーム(ICT)	毎週木曜日 14:00 ~ 15:30	ミーティング終了後
褥瘡対策チーム(PUT)	第2・4金曜日 13:30 ~ 13:40	ミーティング終了後
栄養サポートチーム(NST)	第3金曜日	毎週火曜日 14:30 ~
救急サポートチーム(EST)	第3金曜日 15:00 ~ 16:00	
認知症サポートチーム(DST)	偶数月第1火曜日 13:30~14:00	毎火曜日 13:30~
排尿ケアチーム(UCT)	毎週木曜日 15:30~	ミーティング終了後
術後疼痛管理チーム	平日	適宜

5 看護体制

(1) 勤務体制・勤務時間（2026 年度）

部門(病床数) 主な診療科等	勤務 体制	勤務時間		
		看護師	介護福祉士	ナース アシスタント
ICU(6) 救急外来 血管撮影室	2 交替制 3 名夜勤	日勤 8:30～17:15 日勤ロング 8:30～19:30 遅出 10:45～19:30 夜勤 19:15～ 9:30		早出 7:00～15:30 早出半日 7:00～12:00 日勤 8:30～17:00 遅出 11:30～20:00 夜勤 21:30～6:30
3 階東病棟(45) 一般急性期	2 交替制 3 名夜勤			
3 階西病棟(46) 一般急性期				
SCU (12)	2 交替制 4 名夜勤			
4 階東病棟(37) 一般急性期	2 交替制 3 名夜勤			
4 階西病棟 (52) 地域包括ケア病棟	2 交替制 3 名夜勤			
5 階東病棟 (51) 回復期リハビリ テーション病棟	2 交替制 3 名夜勤			
5 階西病棟 (51) 回復期リハビリ テーション病棟				
手術部 (3 室) 救急外来 血管撮影室	オン コール	日勤 8:30～17:15		
外来・地域連携総合 相談室	日勤のみ	日勤 8:30～17:15		
看護部管理室	看護部長、副看護部長(2)、病床機能調整担当係長 業務担当看護師長 教育担当看護師長 教育担当			

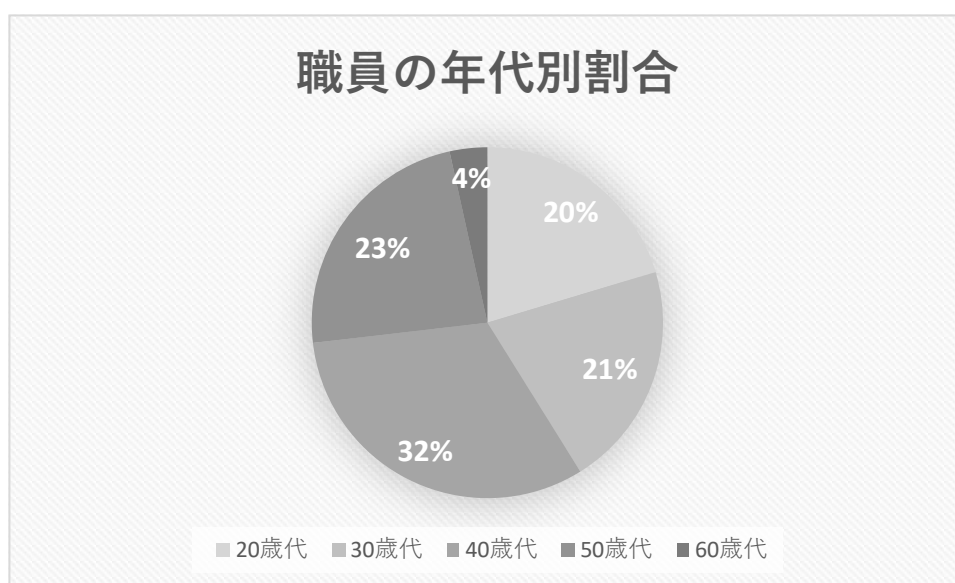
6 看護職員状況

(2026年3月31日現在 医療の質管理室、再任用職員、会計年度職員を除く)

(1) 職員数: 228人

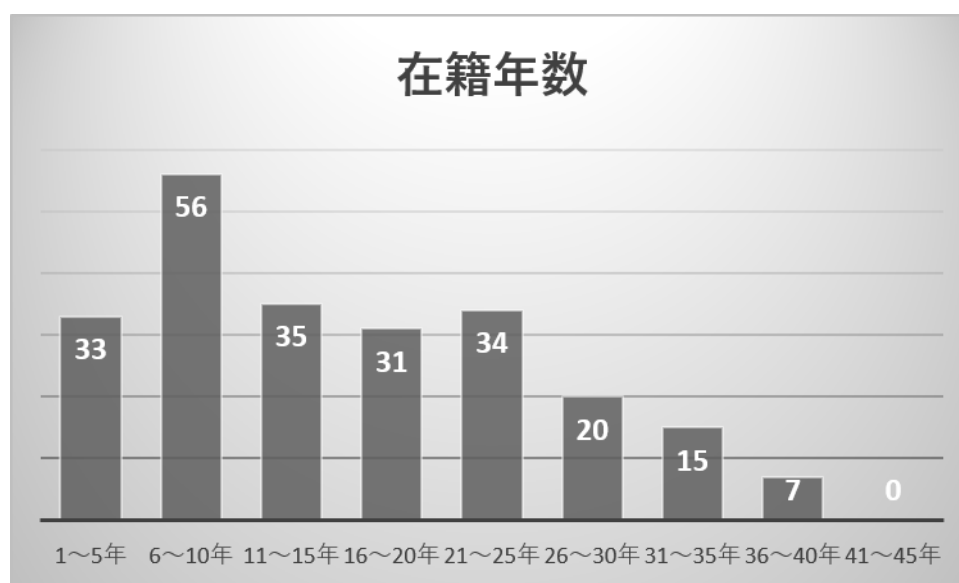
(2) 平均年齢: 41.5歳

(3) 年代別の割合:



(4) 平均在職年数: 14.8年

(5) 在職年数の分布:



7 看護方式と看護記録

(1) 看護提供方式

パートナーシップ・ナーシング・システム®(PNS®)

看護師が安全で質の高い看護を共に提供することを目的に、よきパートナーとして、対等な立場で、互いの特性を活かし、相互に協力し合って、日々の看護ケアをはじめ委員会活動、病棟内の係の仕事に至るまで、1年間を通じて活動し、その成果と責任を共有する看護体制。

(2) 看護記録

問題志向型方式(POS : Problem Oriented System)による問題志向型看護記録(PONR : Problem Oriented Nursing Record)を導入し、看護過程に沿った記録を展開している。

アセスメントの概念枠組みは、ゴードンの 11 の機能的健康パターンを基に作成している。アセスメントに基づき、患者に起こっている問題を NANDA- I 看護診断、標準看護計画(手術・治療別・共同問題)を用いて、より個別的な看護提供ができる看護記録を実施している。一部、クリニカルパスを運用している。

8 部署紹介

外来・地域連携総合相談室	
部署特性	【主な診療科】 脳神経内科、脳神経外科、整形外科、リハビリテーション科、循環器内科・眼科など 【特殊外来】 脳卒中一次予防外来、もの忘れ外来、MCI(軽度認知障害)外来、めまい外来、頭痛外来、水頭症外来、CPAP 外来、禁煙外来、腎症外来、看護相談外来、補装具外来 【その他】 画像診断検査、上部内視鏡検査、胃瘻造設術、脳ドック、採血室、褥瘡対策委員会・チームの事務局、排尿ケアチームコア活動 <外来> 急性期から慢性期までの幅広い患者に対して、各診療科の診療補助や治療・検査の対応をしている。高い専門性をもって、予防的支援や手術前支援、退院後の在宅療養支援など幅広い看護を実践しています。 シームレスな継続看護をめざし、外来から入院、そして退院後の生活指導まで関係職種と連携し、「その人らしさ」を考え、患者さんを包括的に支援しています。 <地域連携総合相談室> 脳卒中や神経・脊椎疾患は突然の発症により、後遺症により生活環境の見直しが必要となることが多く、入退院支援の重要性が高い分野です。当部門では、早期介入とアセスメントを行い、多職種カンファレンスを通してチーム医療を推進しています。 「その人らしさ」を大切にした個別支援や意思決定支援を行い、在宅・社会復帰に向けた地域連携を行っています。また、医療的ケア児(者)の受け入れに伴い、入院前面談を実施し、家族・地域と病棟をつなぐ架け橋の役割を担っています。
大切にしている看護	<外来> 退院後の生活をサポートするために、退院後の初回外来受診時に看護師が介入し、部署カンファレンスで共有・アセスメントし、「継続看護」を実施して地域と連携しています。MCI 認知症センターの看護相談外来では、外来看護師が認知症患者・家族の支援を行っています。排尿ケアチームや褥瘡対策チームの一員として専門的ケアの推進に関わり、専門性を生かしながら、個別性のある継続看護を大切にしています。 <地域連携総合相談室> 早期から退院を見据えたアセスメントを実施し、患者・家族と丁寧な対話を行っています。「その人らしさ」を大切に、住み慣れた地域で過ごし続けられるよう、多職種と連携し支援しています。また外来看護師と連携した継続看護により、外来通院患者を包括的に支援しています。

ICU(6 床) 血管撮影室 救急外来	
部署特性	ICU では、脳血管疾患発症直後の患者や重症患者に対し、全身管理を含めた看護を提供しています。救急外来や血管撮影室の看護も担い、初期対応から集中治療まで一貫して院内の救急医療を支えています。一次脳卒中センター(PSC: Primary Stroke Center)コア施設にある ICU として、24 時間 365 日、高度専門医療を提供しています。 また多職種や横浜市立大学附属病院遠隔 ICU による支援を活用しながら、地域との連携や倫理的配慮を大切にし、患者の尊厳とその人らしさを重視した看護を行っています。
大切にしている看護	患者のわずかな変化を見逃さない観察とアセスメントを大切にし、患者の回復を支えています。また、救急外来から集中治療までの役割を意識し、地域とつながる継続看護を大切にしています。 倫理的課題にも向き合いながら、患者の尊厳とその人らしさを尊重した看護を目指し、経験を共有しながら互いに学び支え合い、看護の質向上と働きがいのあるチーム作りに取り組んでいます。

手術部(3 室) 血管撮影室 救急外来	
部署特性	手術室 3 室および血管撮影室、救急外来を所管しています。脳神経外科では、くも膜下出血や脳出血などの緊急手術に 24 時間体制で対応するとともに、未破裂動脈瘤などの予定手術も行っています。整形外科では、脊椎疾患や骨折など幅広い患者に対応し、各種手術を実施しています。神経内科では組織試験採取や気管切開術も行っています。 また、血管撮影室や救急外来でも ICU と連携し、PSC コア施設としての体制を整えています。
大切にしている看護	専門性の高い知識・技術の習得が求められる中で、安全かつ円滑な手術が進行できるよう、術中の変化を見逃さない観察力や臨床判断能力を養い、看護を実践しています。また多職種と連携し、チーム医療を推進しながら安全な手術の提供に努めています。 手術前訪問では、担当看護師が患者と事前に対話することで信頼関係を構築し、安心して手術に臨めるよう支援しています。さらに、麻酔科にある患者の代弁者として倫理的感受性を大切にし、全身状態の観察・感染・事故防止に勤めています。

3 階東病棟(45 床)	
部署特性	急性期一般病棟で、整形外科をはじめ、脳神経内科脳神経外科・循環器内科の疾患を抱える急性期患者を受け入れています。急性期治療と並行して早期からリハビリテーションを行っています。 急性期看護からリハビリテーション、退院支援まで幅広い看護が求められ、医師やリハビリテーション専門職、地域連携室、MSW、外来看護師、他部署と協働しながら、日常生活動作の向上や退院に向けた支援を行っています。また、小児期から老年期まで幅広い患者を受け入れており、疾患だけでなく患者の特性を捉えた個別性のある看護を提供しています。
大切にしている看護	術後の状態観察を密に行い、周麻酔期看護師や薬剤師等と協働しながら術後疼痛管理を行うとともに、合併症の予防や早期離床を支援し、術後の回復促進に努めています。 また、急性期治療を受けながらリハビリテーションを行い、退院を目指すという変化の大きい時期にある中で、発症により生活の再構築を余儀なくされる患者も多いため、不安や悲観を受け止めながら患者・家族に寄り添うことを心掛けています。

3 階西病棟(46 床)	
部署特性	脳神経外科では、出血性疾患や脳虚血性発作の再発予防を目的とした手術や処置、脳動脈瘤や動脈狭窄などの診断・治療を行っています。周手術期をはじめ、急性期の全身管理や早期の異常発見、合併症予防に努めるとともに、早期リハビリテーションによる機能回復を促進しています。また高齢者が多いという特性を踏まえ、認知機能低下の予防に配慮しながら、医師、薬剤師、MSW、リハビリテーション専門職、管理栄養士等と連携し、退院支援・調整に向けた看護を行っています。
大切にしている看護	患者・家族に安心して安全な看護を提供できるよう、専門的な知識・技術に基づいた効果的な看護ケアを実践しています。臨床工学技士やリハビリテーション部門、呼吸サポートチーム(RST)など多職種と連携し、呼吸管理を行っています。 突然の発症により障害を伴った患者やその家族に寄り添い、気持ちを尊重した専門性の高い看護の提供に努めています。さらに看護師が中心となって医師・薬剤師、MSW・リハビリテーション専門職・管理栄養士と情報を共有し、方向性の明確化を図りながら多職種連携を行い、早期から退院調整を進めるとともに、退院後の生活を見据えた意思決定支援を行っています。

SCU(12 床)	
部署特性	PSC コア施設に設置された脳卒中集中治療室(Stroke Care Unit:SCU)として、脳梗塞・脳出血・くも膜下出血といった脳卒中疾患の患者を 24 時間 365 日体制で受け入れています。 急性期治療である血栓溶解療法、血管内治療、外科的治療の全身管理を行い、異常の早期発見や二次合併症の予防に努めています。さらに治療と並行して患者の状態に合わせた早期リハビリテーションを開始し、機能予後の改善や廃用症候群の予防に取り組んでいます。 脳卒中急性期患者は、意識障害、運動・感覚障害、高次脳機能障害、摂食・嚥下障害など様々な症状を呈します。入院時から退院後の生活を見据え、再発予防を含めた生活の再構築に向け、多職種で協働しながら患者家族の希望する生活の場への早期退院を支援しています。
大切にしている看護	脳卒中に関する専門的知識を日々養い、専門病棟として症状変化を見逃さないよう、観察・アセスメントを丁寧に行いながら、個々の症状に合わせた看護ケアを実践し、日常生活動作の拡大を支援しています。 また、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師や摂食・嚥下障害看護認定看護師を配置し、専門性の高い看護を提供しています。早期リハビリテーションを実践するため、リハビリテーション専門職と連携し、患者に応じた離床や生活支援を行っています。 さらに、管理栄養士と連携して栄養状態の改善や退院前の栄養指導を行い、再発予防に取り組んでいます。併せて、後遺症を伴う患者が多いことを踏まえ、退院支援において MSW と早期から情報共有を行い、支援の継続に繋げています。 突然の発症による入院に伴う患者・家族の不安に配慮し、寄り添った関わりを大切にするとともに、急性期に生じやすい代理意思決定などの倫理的問題の把握と対応にも努めています。

4 階東病棟(37 床)	
部署特性	急性期一般病棟として、脳神経内科、脳神経外科、循環器内科、整形外科など幅広い患者を受け入れています。陰圧個室 2 床を有し、COVID-19 や空気感染予防策が必要な患者にも対応しています。 ALS やパーキンソン病などの神経難病、てんかんの精査・加療、脳血管疾患、肺炎・感染症、レスパイト入院など多様な患者に対応し、ICU・SCU の後方病棟や心臓リハビリテーション疾患の受け入れも行っています。 急性期以降の療養先については、患者・家族の希望を踏まえながら早期から関連職種と連携して調整しています。在宅療養を希望する患者に対しては介護指導など家族を含めたケアを行い、地域と連携した支援を行っています。ADL 低下予防のためにリハビリテーション部とも協働しています。
大切にしている看護	呼吸・循環などの高度治療管理や感染症治療管理に必要な看護技術とフィジカルアセスメントの知識をもとに、異常の早期発見に努めます。 認知症や高齢者ケア、退院支援・調整、介護指導の知識・技術を研鑽し、急な疾患による生活様式の変化に直面した患者や家族に寄り添い、気持ちを尊重した看護を実践しています。 さらに、多職種と連携し患者・家族の希望に沿った支援を行い、陰圧個室と一般病床の併存を踏まえた感染対策により院内感染防止にも取り組んでいます。

4 階西病棟(51 床)	
部署特性	地域包括ケア病棟は、急性期の治療を終えた患者さんや、何らかの理由で一時的な入院を余儀なくされた患者さんに対して、在宅復帰に向けての支援や準備などを行っています。 ポストアキュートとして脳神経疾患や脊椎脊髄・整形外科疾患などで急性期を脱した患者さんを院内外から受け入れている。サブアキュートとして在宅療養をされている患者の受け入れを行っています。また、呼吸器使用など医療依存度の高い難病患者のレスパイト入院(横浜市難病患者一時入院事業)や、重症心身障害者等のレスパイト入院の受け入れも行っています。 一定の期間内で地域での生活に戻ることができるように、医師、MSW、リハビリテーション専門職や地域と連携し退院支援・調整を行っています。
大切にしている看護	患者さんやご家族の思いを尊重し、これまでの生活や価値観を大切にしながら、その人らしい生活の継続を支える看護を実践しています。入院中から退院後の生活を見据え、多職種と連携して患者一人一人の状態や背景に合わせた支援を行い、退院調整につなげています。さらに、地域との連携により継続した支援体制を整え、安心して地域で生活が続けられるよう支援しています。

5 階東病棟(51)	
部署特性	回復期リハビリテーション病棟として、主に脳血管疾患・脊椎脊髄疾患・骨折などの急性期治療が終了した患者を院内外から受け入れています。施設基準は「回復期リハビリテーション病棟入院料1」を算定しており、障害等の重症度が高い患者も積極的に受け入れています。 看護師、介護福祉士、ナースアシスタントと多職種(医師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション専門職、MSW など)とチームとなり、情報共有と在宅・社会復帰に向けた、個別性の高い支援計画の立案・実施、患者・家族
	の意思決定支援を行っています。
大切にしている看護	患者一人ひとりの状態や生活背景を踏まえ、「その人に本当に必要な看護は何か」を常に考え、その人らしい回復を支える看護を実践しています。 回復期リハビリテーション病棟協会認定回復期リハビリテーション看護師を中心とした勉強会や院内外研修を通して、専門的知識の共有と看護実践の質向上に努め、学びをチーム全体に還元することで組織の成長につなげています。 さらに、看護師・介護福祉士・ナースアシスタントが連携し、業務改善や環境整備に取り組み、働きやすい職場づくりを行いながら、質の高い看護の提供を目指しています。

5 階西病棟(51 床)	
部署特性	回復期リハビリテーション病棟として、主に脳血管疾患・脊椎脊髄疾患・骨折などの急性期治療が終了した患者を院内外から受け入れています。施設基準は「回復期リハビリテーション病棟入院料 1」を算定しており、障害等の重症度が高い患者も積極的に受け入れています。 看護師、介護福祉士、ナースアシスタントと多職種(医師、薬剤師、管理栄養士、リハビリテーション専門職、MSWなど)とチームとなり、ADL 向上、在宅復帰促進、住み慣れた場所でその人らしく生活が送れるように生活の再構築を支援する場です。チームで情報共有と在宅・社会復帰に向けた個別性の高い支援計画の立案・実施、患者・家族の意思決定支援を行っています。
大切にしている看護	急性期治療を終了した患者がリハビリテーションに専念できるよう、安全で安心できる生活環境と生活リズムを整えることを大切にしています。 リハビリテーションや生活場面において、「できる ADL」を「している ADL」へとつなげ、セルフケア能力を引き出す関わりを行っています。 さらに再発や合併症のリスクを踏まえフィジカルアセスメントを重視し、自己管理を支援するとともに、多職種と連携しながら患者・家族の思いを傾聴し、その人らしい生活の実現と在宅・社会復帰につなげています。

9 継続教育

(1) 教育理念

臨床実践能力の向上を図り、倫理に基づいた行動ができる看護職員を育成する。

(2) 教育目的

- ア 専門職業人として人間性豊かな感性を育み、看護倫理に基づいた看護実践ができる人材を育成する。
- イ 看護の専門性を養い、臨床実践能力の高い人材を育成する。
- ウ 専門職として自律した行動ができる人材を育成する。
- エ 医療チームの一員として主体的に行動できる人材を育成する。
- オ 社会のニーズを把握し、地域医療に貢献できる人材を育成する。

(3) 教育目標

- ア 根拠に基づいた安全・安楽な看護ケアの提供ができる。
- イ 専門的知識・技術を習得し、看護実践能力を高めることができる。
- ウ 倫理的感受性を高め看護倫理に基づいた看護実践ができる。
- エ 職業人として自己のキャリアを考え、自律的に取り組むことができる。

(4) 院内研修実績(2025 年度)

ア 院内教育プログラム

CDP	研修名		対象・臨床実践能力	ねらい	方法	開催日	時間	講師・担当者
オリエンテーション	新採用看護職員オリエンテーション		新採用者	・当院の職員としての自覚を養うと共に、新しい職場に適應するための準備ができる	集合	4/7(月)～ 4/9(水)	2 日間 0.5 日× 1 日間	看護部長 副看護部長 教育・業務担当 多職種 医療安全管理担当 認定看護師
看護実践能力	1 年目	看護技術研修	CDP1 段階以上	・当院に必要な基本的看護技術を習得する	演習			
		研修①		オムツ交換・導尿・尿道カテーテル・陰部洗浄		4/10(木)	0.5 日 (pm)	排尿ケアチーム
		研修②		寝衣交換・体位変換・ポジショニング・起居・移乗・吸引・酸素投与		4/11(金)		セラピスト
		研修③		点滴・血糖測定・インスリン注射・経管栄養		4/18(金)		RST 教育委員 認定看護師

CDP	研修名	対象・臨床実践能力	ねらい	方法	開催日	時間	講師・担当者
		研修④	輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター・12 誘導心電図		4/25(金)		教育担当
		研修⑤	車いす操作・心電図の基本・人工呼吸器管理		5/9(金)		
		研修⑥	採血		6/13(金)	15 時～17 時	
		研修⑦	静脈注射確保		R8.3/5(木)	16 時～17 時	教育担当
		医療安全	・医療従事者として患者と医療者を守るために、正しい確認行為を身につける	講義・演習	6/13(金)	13 時～15 時	教育委員 教育担当
		臨床判断【入門編】	・看護師の行為が臨床判断に基づいて実施されていることを理解し、臨床判断を行うために必要な『気づく』力を身につける	講義・演習・GW	8/14(木)	0.5 日 (pm)	教育委員 教育担当
		セルフマネジメント①	・役割を認識し、社会人として必要な能力を身につける	講義・GW	11/27(木)	0.5 日 (am)	教育担当
		セルフマネジメント②	・1 年を振り返り 2 年目に向けた目標を見出すことができる	講義・GW	R8.3/5(木)	14 時～16 時	
	2 年目	院内留学	・自部署の看護師としての役割を再認識し自己のキャリアビジョンを考えるきっかけとするために、関連部署における看護を実践する	臨床実践	7～9 月	2 日間	教育委員 教育担当
		臨床推論	・受持ち患者の個別性を踏まえた適切な看護を提供するために、対象の健康問題を解決するケアを導く思考プロセスを(臨床推論)を学ぶ	講義	5/31(土)	0.5 日 (am)	講師:小澤知子先生 東京医療保健大学
		推進者		臨床実践			
				発表	9/2(火)	0.5 日 (am)	教育委員・教育担当

CDP	研修名		対象・臨床実践能力	ねらい	方法	開催日	時間	講師・担当者
	3年目	ケーススタディ看護研究概論	CDP2段階以上 (新卒3年目必須)	・自己の看護実践について事例検討を通して振り返るために、ケーススタディに必要な能力を身につける	講義	6/26(木)	0.5日 (am)	講師:看護師長 教育委員 教育担当
		伴走者	CDP3段階以上		事例展開			
					発表	10/31(金)	0.5日 (pm)	
	臨床判断【実践編】		CDP2段階以上	・実践で意図的に離床判断モデルを活用するために、臨床判断モデルの概念を理解する	講義・GW	10/3(金)	0.5日 (pm)	教育委員 教育担当
	医療倫理		CDP3段階以上	・倫理感受性を養い、臨床における倫理的問題について取り組むことで部署に還元できる	講義・GW	7/5(土)	0.5日 (am)	教育委員 教育担当
	看護倫理入門		CDP1段階以上		臨床実践			
				報告会	11/6(木)	0.5日 (pm)		
	きらり☆ワイスター	CDP4段階以上	・患者や家族に質の高い看護を提供するためにジェネラリスト看護師として、部署のロールモデルになる	講義・GW	6/5(木)	0.5日 (pm)	講師:教育担当師長	
				講義【認識論】	8/19(火)	1日	講師:植垣一彦先生	
				報告会	12/4(木)	0.5日 (pm)	教育委員・教育担当	
	認定看護師と一緒に ブラッシュアップ研修	全看護職員対象	・専門領域の看護知識・技術を身につけ臨床実践能力を高める。	講義・演習	全6回	17:30 ～ 18:30	認定看護師会	
			①マスターしよう！ 車椅子の移乗と移動		5/9(金)		脳卒中リハビリテーション看護認定	
			”②手術体位について知ろう！～術中体位を体験して術後の観察につなげよう～”		6/13(金)		手術看護認定(特定)	
			③劇場版！ 摂食・嚥下 Risk and Basic ♪		8/14(木)		摂食・嚥下障害看護認定	

CDP	研修名	対象・臨床実践能力	ねらい	方法	開催日	時間	講師・担当者
			④何かおかしい！？ それって 〇〇…？ 急変を未然に防ぐ ABC		9/4(木)		集中ケア認定
			⑤「あれ、何か変だな」 －認知機能障害への気づきと対応－		11/6(木)		認知症看護認定
			⑥菌やウイルスの伝播を可視化してみよう		R8.3/5(木)		感染管理認定
マネジメント・教育・研究能力	<New> キャリア研修	職位Ⅱ	・職位Ⅱスタッフが生涯学習ガイドラインを参考に今後のキャリアについて考える	講義・GW レポート提出	7/15(火)	0.5 日 (am)	教育担当
	フレッシュ パートナー 育成研修	CDP 3 段階 以上 (フレッシュ パートナー)	・新採用看護職員の実態を理解し、個々の背景、特徴を踏まえた共感的な関わり方を考えることができる	講義・事例 検討 <市民病院合同>	R8.2/16	1 日 (市民病院)	講師：新保 幸洋先生 東邦大学理 学部教授
	看護研究実践 コース	希望者	・研究方法の基礎を学び、臨床の課題を研究的手法を用いて分析し、研究論文を完成させ院内外で発表できる	面接 指導 (1 回 /2 ヶ 月×全 10 回) 研究 活動	令和 6 年度 開始群 5/14 7/9 9/3 11/12 R8/1/28 3/6(発表会) 令和 7 年度 開始群 10/29 12/3 R8/2/25	13:30 ～ 16:30	講師：川原 理香先生 松蔭大学看 護学部看護 学科 講師：下村 晃子先生 松蔭大学看 護学部看護 学科
自己啓発	公開講座	全職員 地域医療機関		講義 (WEB 配信)		17:30- 19:00	
	・「看護倫理」				7/16(水)		講師：鶴若 麻理先生

CDP	研修名	対象・臨床実践能力	ねらい	方法	開催日	時間	講師・担当者
							聖路加国際大学看護学部
	・「セルフコンパッション」				9/25(木)		講師:秋山美紀先生 武蔵野大学ウェルビーイング学部
協働者研修	介護福祉士看護補助者研修		介護福祉士・ナースアシスタントの役割を理解し、業務に必要な知識・技術を習得し高める	講義 演習		1 時間	ナースアシスタント担当 医療の質管理室係長 認定看護師 主任看護師会 など
		全員	I ナースアシスタント協働研修		5/7・5/14・5/21		
			II 技術研修				
		全員	①感染対策		5/7・5/14・5/21		
		全員	②排泄介助		6/16・6/18		
		ステップ1	③起居・移乗・食事		8/6・8/25		
		全員	④認知症対応		R8.2/12・2/16		
		対象者	⑤BLS		随時		
			III チーム力向上研修				
		ステップ1	①KYT(入門編)		10/16・11/20		
		ステップ2以上	②KYT(応用編)		実施無し		
		ステップ2以上	③補助者に求められる倫理		実施無し		

10 院外教育実績

(1) 院外研修(2025 度)

ア 神奈川県看護協会関連

テーマ	日程	人数
看護実践が見える看護記録を目指して ～形式監査・質監査～	6 月 12 日	3
横浜3支部大会・講演会「首都圏直下型地震を想定した私たちの取るべき行動」	6 月 26 日	1
主任看護師に必要なマネジメントの基礎知識	6 月 30 日	2
事例から学ぶ褥瘡のリスク評価とケアの実際	7 月 7 日	1
【会場および Zoom によるハイブリッド】看護師職能Ⅰ集会・講演会「意思決定支援「患者本人が決める」ことを支援するために」	7 月 10 日	3
チーム力を高めるファシリテーションスキル ～チーム力を発揮するためのコツ～	7 月 14 日	2
看護師職能委員会Ⅱ職能集会・講演会「認知症をもつ人とのコミュニケーションと感情マネジメント・認知症をもつ人の行動心理症状へのケア」	7 月 26 日	6
感染リンクナースのための感染管理	7 月 28 日、 29 日	1
地域連携のための相互研修会	9 月	1
生涯学習ガイドラインを活用した人材育成～JNA ラダーから生涯学習ガイドラインへの移行～	9 月 2 日	1
横浜市プラチナナース就業継続支援研修	9 月 8 日	2
高齢者の人生最終段階における意思決定支援 ～患者・家族の ACP～	9 月 19 日	2
【事前課題あり】看護師職能委員会Ⅰ研修会「ナッジ研修 第3弾 実践編～ナッジを設計し、わたしの看護現場をよくしよう～」	10 月 10 日	1
2025 年度 Y ナース(横浜市災害支援ナース)登録推進研修	10 月 19 日	1
チーム力で築く安全文化～インシデント分析から取り組みまで～	10 月 20 日、 21 日	1
トラブルを防ぐストーマケア～漏れない！取れない！困らない！～	11 月 6 日	1
横浜 3 支部(北・西・南)合同研修会「認知機能が低下した患者の日常生活支援」	11 月 21 日	1
高齢者支援と認知症患者の看護	12 月 2 日、3 日	1
急変の前兆を見逃さない！リーダーナースのためのフィジカルアセスメント～臨床推論を活用して～	12 月 8 日	2
【会場及び Zoom によるハイブリッド】看護師職能委員会Ⅰ研修会「身体拘束に頼らない対応ができる看護職になろう」	2026 年 1 月 9 日	1
2025 年度 Y ナース(横浜市災害支援ナース)フォローアップ研修	2026 年 1 月 11 日	2

イ その他外部研修

主催	テーマ	日程	人数
聖灯看護専門学校	学生の特徴を踏まえた指導の在り方とは —合理的配慮・社会人基礎力・ハラスメント対策等から考える—	6月18日	2
一般社団法人日本臨床看護マネジメント学会 ヴェクソンインターナショナル株式会社	「重症度、医療・看護必要度」評価者及び院内指導者研修	6月30日 ～9月30日	2
横浜市職員 ステップアップカレッジ	シティープロモーション	8月19日	1
日本看護協会	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	9月、10月	2
横浜市職員 ステップアップカレッジ	クレーム対応向上研修～より良い窓口サービスのために	10月9日	2
筑波大学附属病院	認知力アップデイケア視察	10月17日	1
横浜市病院協会	高齢者支援と認知症患者の看護	10月、11月	1
横浜市立大学附属病院	認知症ケア対応能力向上研修	10月、11月 2026年1月、2月	2
磯子地域介護と看護の会	食事支援の困りごとを考えよう	10月23日	1
横浜市職員 ステップアップカレッジ	ストレスフリーのコミュニケーション研修	11月19日	1
日本施設管理士協会	身体的拘束最小化 施設基準から見た現状と課題	12月5日	8
滝頭地域ケアプラザ	認知症介護者のつどい	11月28日	1
埼玉県看護協会	高齢者支援と認知症患者の看護	2026年 1月26日	2

(2) 進学

進学先	期間	人数
聖路加国際大学大学院 ニューロサイエンス看護学 上級実践コース	4月～3月	1
神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 認定看護管理者教育課程セカンドレベル	5月～3月	1
独立行政法人国立病院機構 認定看護管理者教育課程サードレベル	6月～7月	1
神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 看護実習指導者講習会	7月～8月	1
神奈川県立保健福祉大学実践教育センター 認定看護管理者教育課程ファーストレベル	9月～3月	1

11 看護部のリソース

(1) 認定看護師の活動

【集中ケア認定看護師】

活動目的:

急性かつ重篤な患者の病態変化を予測し、重篤化を回避する為の援助を行う。生活者としての視点からアセスメント及び早期回復支援リハビリテーションを立案し実施、評価する。また、その家族に対しても倫理的側面を考慮したより良い看護実践を行う。

役割・機能:

- フィジカルアセスメントを駆使して、科学的根拠のある看護実践を行い患者の日常生活支援を行う。
- 常に患者・家族に主体を置き、医療チーム内での調整を行う。
- 事例検討・研究を通して、実践している看護を客観的に評価し、質の向上に努める。
- 集中ケア看護領域における医療の最新情報を持ち、看護師に対する相談・指導を行う。
- 集中ケア看護領域の継続教育に主体的にかかわる。

令和 7 年度活動目標:

- 院内看護スタッフの呼吸・循環関連の知識・技術の向上を図る
- 認定看護師としての臨床実践能力の向上を図る

令和 7 年度活動実績:

	おもな活動内容
院内	実践 ・所属病棟での看護実践(呼吸器管理、呼吸器関連インシデント対応等) ・EST 運営 (院内 BLS 研修メンバー育成、研修企画、BLS 研修実施) ・ICLS 研修企画・準備 ・MACT ラウンド ・院内急変事例現場対応 ・医療ケア児者プロジェクト参加
	指導(教育活動) ・BLS 研修・ ・部署勉強会講師(EM コール事例検討 リハビリテーション部、病棟)
	相談 ・一般病棟での人工呼吸器患者について対応 ・人工呼吸器離脱に向けた呼吸アセスメント ・急性期患者家族の精神的危機的状況へのアプローチについて
院外	その他 ・集中治療学会、看護管理学会参加 ・FCCS 川崎 アシスタント(見学) ・第 19 回医療の質・安全学会一般口演 座長 ・神奈川県立保健福祉大学看護技術演習ファシリテーター ・磯子区健康フェスティバルブース運営 ・神奈川県看護協会オープンセミナー、一般社団法人横浜市在宅看護協議会訪問看護師人材育成プログラムへの参画(横浜市医療局業務委託) ・ICLS インストラクター ・重症集中ケア「重症頭部外傷症例」執筆

【摂食・嚥下障害看護認定看護師】

活動目的:

- 摂食・嚥下障害のある患者の QOL の向上を目指して、個別性、専門性の高い看護を実践する。
- 摂食・嚥下障害看護の専門的知識と実践力を基盤として、スタッフの指導・相談を行う。
- 摂食・嚥下障害看護における臨床実践能力の向上に努める。

役割・機能:

- 実践
 - ・脳神経・筋骨格系フィジカルアセスメント及び摂食・嚥下機能評価法を用いて、摂食・嚥下機能を評価する。
 - ・摂食・嚥下障害の原因疾患に関する知識から、看護スタッフが摂食・嚥下障害の病態を理解できるよう支援する。
 - ・適切な摂食・嚥下訓練を選択し、看護スタッフとともに安全・確実に実施する。
 - ・摂食・嚥下障害患者の呼吸状態、栄養状態、体液平衡状態について評価する。
 - ・誤嚥性肺炎、窒息、栄養低下、脱水などを予防し、摂食・嚥下障害の増悪を防止するなどのリスク管理を看護スタッフとともに行う。
 - ・多職種と積極的に協働し、チーム医療として摂食・嚥下リハビリテーションを推進する。
- 指導(教育活動)
 - ・看護師および患者・家族に、摂食・嚥下訓練について指導する。
 - ・摂食・嚥下障害看護の実践を通して役割モデルを示し、具体的な指導を行う。
- 相談(コンサルテーション)
 - ・摂食・嚥下障害に伴う看護ケアに対して、看護スタッフの具体的な相談をうける。

令和 7 年度活動目標:

- 実践
 - ・各部署の特性に合わせた看護実践を継続して行う。
 - ・部署と多部門間の連携を推進する。
- 指導
 - ・摂食嚥下障害看護に取り組む上での基礎的な知識・技術の浸透を図る。特に安全安楽に関すること(根拠のある患者のアセスメントと口腔内環境)に取り組む。
 - ・NST 褥瘡対策リンクナース会の担当師長からの相談や、リンクナースの活動を支援する。
 - ・介護福祉士・ナースアシスタントへの教育を行う。
- 相談
 - ・実践の中から相談的な活動とできる案件を見だし、部署が主体的に解決できるように関わることができる。

令和 7 年度活動実績:

	おもな活動内容
院内	実践 ・院内各部署における看護実践 ・NST への参加、NST 褥瘡対策リンクナース活動の推進とサポートおよび NST 回診への参加 ・食事開始・食形態変更基準ガイドラインの実施に向けての援助 ・栄養サポート加算の確実な取得に向けた取り組み ・OHAT-J の活用による口腔内環境評価と誤嚥性肺炎発症の予防 ・嚥下造影検査、嚥下内視鏡検査の参加、病棟スタッフへの情報提供と提案 指導(教育活動) ・院内講師実績参照 ・コスト意識(物品や加算関連)への促進 相談 ・他分野の認定看護師や学生の相談対応 ・栄養・食事面・口腔ケアでの ST・病棟スタッフからの相談受付 ・NST からの経管栄養の早期開始プロトコル導入について ・管理栄養士からの嚥下調整食の内容について
院外	その他 ・関連学会・研究会・院外セミナーへの参加、院外講師 ・神奈川県看護協会オープンセミナー、一般社団法人横浜市在宅看護協議会訪問看護師人材育成プログラムへの参画(横浜市医療局業務委託)

【脳卒中リハビリテーション看護認定看護師】

活動目的:

- 脳卒中患者の病態予測から重篤化を回避するための援助を行い、急性期から病態に応じた活動性の維持と促進のために早期リハビリテーションを行う。
- 脳卒中看護における臨床実践能力の向上に努める。

役割・機能:

- 実践
 - ・ 脳神経・筋骨格系のフィジカルアセスメントを行い、神経学的評価から患者の障害・残存機能を評価する。
 - ・ 廃用症候群を予防・回避し、病態に応じた早期リハビリテーションを多職種で協働して実施する。
 - ・ 危機的状況にある患者・家族の心理的ケア。
 - ・ 他職種と積極的に協働し、チーム医療として脳卒中リハビリテーションを推進する。
- 指導(教育活動)
 - ・ 実践を通して役割モデルを示し、具体的な指導を行う。
 - ・ 介護福祉士・看護補助者への教育を行う。
- 相談(コンサルテーション)
 - ・ 脳卒中発症後の看護ケアに対して、看護スタッフの具体的な相談に対応する。
 - ・ 回復期リハビリテーション看護に対して、具体的な相談を受ける。

令和 7 年度活動目標:

- 院内看護スタッフが脳卒中看護ケアに関する知識・技術の向上を図る。
- 院内看護スタッフが排尿ケアに関する知識・技術の向上を図る。
- 市民や院外の看護職や看護学生等との交流を図り育成に貢献する。

令和 7 年度活動実績:

	おもな活動内容
院内	実践 ・自部署(SCU・回復期リハビリテーション病棟)での看護実践 ・排尿ケアチームへの参加、病棟ラウンド
	指導(教育活動) ・ブラッシュアップ研修「車椅子移乗と移動」 ・新採用者研修「脳卒中看護」、「排尿ケア」 ・脳卒中看護に関連した病棟での勉強会「神経所見(BRS)」、「FIM」等 ・バルーン抜去後の残尿測定や尿測の必要性について(SCU) ・脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程「臨地実習(急性期・回復期)」指導
	相談 ・排尿ケアチームへの依頼内容や方法について ・早期離床への介入方法について ・病棟勉強会での資料の添削や文献紹介
	その他 ・院外講師(13.院外講師派遣実績 参照) ・横浜市健康福祉局 高齢支援課「中途障害者地域活動センターに関する検討会」の委員 ・関連学会、研修会、各種 WEB セミナーへの参加 ・神奈川県看護協会オープンセミナー、一般社団法人横浜市在宅看護協議会訪問看護師人材育成プログラムへの参画(横浜市医療局業務委託)
院外	

【感染管理認定看護師】

活動目的:

感染制御チーム(以下 ICT)と共に院内の感染予防及び感染防止対策に関する実践的活動を行うとともに、医療関連感染に関する問題に専門的に対応し、感染から患者・医療従事者を守る。

役割・機能:

- 実践
 - ・ICT と連携し現状を把握し、問題点の抽出と改善策を検討する。
 - ・関連する委員会等に参加し、組織的な取り組みに参画する。
 - ・感染対策マニュアルの改訂を行う。
 - ・サーベイランスを実施する。
- 指導(教育活動)
 - ・感染管理に関する指導を実施(講義、現場ケアなど)する。
 - ・全職員に向けた感染対策講習会の企画・実施する。
- 相談(コンサルテーション)
 - ・感染管理領域における最新の情報をもち、各職種・部門からの相談に対応する。

令和 7 年度の目標:

- 自部署の感染管理を推進する。
- 院内外の感染管理を推進する。

令和 7 年度活動実績:

	おもな活動内容
院内	実践 ・自部署での看護実践、現場での感染対策指導等 ・ICT 参加、病棟ラウンド、勉強会企画・開催 ・看護部業務委員会内感染管理、院内感染対策委員会、清掃会議参加 ・感染管理加算連携会議参加 ・感染防止対策部署内チェック表の確認とコメント返却、集計と結果報告 ・院内感染対策マニュアルの改訂 ・手術部位感染サーベイランスの実施と結果報告、厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業への報告
	指導(教育活動) ・看護部業務委員会内「手指衛生と環境整備」「サーベイランスについて」 ・看護部主任会主催ナースアシスタント研修「吐物処理」 ・新採用者研修「標準予防策・経路別予防策・職業感染防止策」 ・ブラッシュアップ研修「目で見て学ぼう感染対策」
	相談 ・COVID-19 含め感染症対応関連 ・各部署、部門からのコンサルテーション対応
院外	・感染対策向上加算連携会議参加 ・磯子区医療機関連絡会参加 ・関連学会、各種 WEB セミナー、研修会参加 ・神奈川県看護協会オープンセミナー、一般社団法人横浜市在宅看護協議会訪問看護師人材育成プログラムへの参画(横浜市医療局業務委託)

【認知症看護認定看護師】

活動目的:

認知症の人の意思、尊厳を尊重した看護実践を行い、安全で安心な療養環境を提供する。

役割・機能:

- 認知症の人の状態を統合的にアセスメントし、各期に応じたケアの実践を行う。
- 家族介護者のサポートを行う。
- 認知症の行動心理症状を悪化させる要因・誘因に働きかけ、予防・緩和に努める。
- 認知症の人への看護実践を通して、患者、家族、看護師に対する指導・相談を行う。

令和 7 年度活動目標:

- 質の高い看護の提供:専門職としての専門性の向上
 - ・認知症ケアの知識、技術向上への支援を行う。
 - ・身体拘束最小化チームの導入と定着ができるよう支援を行う。
 - ・認知症サポーター・ユマニチュード研修参加への支援を行う。
- 地域社会・医療全体への貢献
 - ・市民・地域での認知症ケア向上に貢献する。
 - ・予防への啓発活動を行う。

令和 7 年度活動実績:

	おもな活動内容
院内	実践 ・病棟業務を通しての看護実践
	指導(教育活動) ・認知症ケア加算対象 院内研修講師(11 月) ・身体拘束最小化 院内研修講師(2 月) ・認知症ケアリンクナース会での学習会(事例検討会(2 ヶ月ごと)) ・介護福祉士・ナースアシスタントへの院内研修(2 月) ・認知症看護認定看護師教育課程進学希望者支援
	相談 ・DST ラウンドでのカンファレンス、非薬物的ケアへの提案 ・病棟からの相談対応 ・看護主任会:身体拘束患者への対応 ・認知症のある人の ACP の検討
院外	その他 ・認知症関連学会への参加(認知症学会、認知症ケア学会、認知症予防学会、老年看護学会) ・日本看護協会研修への参加 ・認定看護師フォローアップ研修・講習会への参加 ・院外講師(13. 院外講師派遣実績 参照) ・神奈川県看護協会オープンセミナー、 一般社団法人横浜市在宅看護協議会訪問看護師人材育成プログラムへの参画 (横浜市医療局業務委託)

【手術看護認定看護師】

活動目的:

- 手術侵襲を最小限にし、二次的合併症を予防するための安全管理(体温・体位管理、手術機材・機器の適切な管理等)を行う。
- 周術期(術前・中・後)における継続看護の実践を行う。
- 周術期における患者の安全を守り、手術が円滑に遂行できるよう専門的知識と技術を提供する

役割・機能:

- 実践
 - ・身体的・精神的・社会的などの視点から患者状態を理解し合併症の予防などに留意し、術後早期に回復できるよう周術期に一貫して関わる。
 - ・他部署・病棟看護師と連携をとり、手術や麻酔に必要な準備を整えて患者が安全・安楽に手術に臨めるよう努める。
- 指導
 - ・手術看護の実践を通して役割モデルを示し、具体的な指導を行う。
 - ・周術期における、最新情報を持ち、周手術期における指導を行う。
 - ・周術期における教育に主体的に関わる。
- 相談
 - ・手術に伴う看護ケアに対して、看護スタッフの相談に対応する。

令和 7 年度目標:

- 専門職としての専門性の向上
- 周術期看護の質の向上
 - ・入院前支援内容の調整、面談の基盤作りを行う。
 - ・術前看護介入内容の強化(周術期関連部署・手術部スタッフ)を行う。

令和 7 年度活動実績:

	主な活動内容
院内	実践 ・手術室業務を通しての手術看護実践 ・内視鏡手術、外視鏡手術導入の調整 ・術後疼痛管理チームメンバー参加 指導 ・部署内勉強会の実施 ・手術部教育計画の評価と修正 ・院内ブラッシュアップ研修講師 相談 ・各部署からの相談に対応
院外	その他 ・神奈川県手術看護認定看護師会主催手術看護セミナー運営参画 ・関連学会参加(日本麻酔科学会、日本手術看護学会、日本手術医学会) ・認定看護師フォローアップ研修、講習会の参加 ・横浜市病院局系列病院(横浜市民病院)手術室での派遣研修 ・神奈川県看護協会オープンセミナー、一般社団法人横浜市在宅看護協議会訪問看護師人材育成プログラムへの参画(横浜市医療局業務委託)

(2) 特定行為研修修了看護師の活動

【術中麻酔管理領域特定行為】

活動目的:

- チーム医療を構成する看護師として特定行為を実施し、質の高い医療をタイムリーに提供する。
- 術中麻酔管理領域において、麻酔科専門医の監督・指示の下、麻酔管理領域の一部医療行為を実践する。
- RST 活動における院内の呼吸管理業務を実践する。

役割・機能:

※麻酔科専門医の監督・指示の下、手順書に則って実践する

- 術前面談
手術を間近に控え、複雑な心境にある患者に、安心して手術室に入室してもらうために、解決可能な不安はないかを探りながら問診と説明を実施する。臨床推論を活かし、周術期に予想されるリスク因子の予防と対策について、周術期計画を立案する。
- 手術麻酔における術中管理
手術麻酔における術中管理 麻酔科医師・特定行為看護師・周麻酔器看護師が協働して、麻酔管理補助を実践する。
- 術後管理、術後訪問
術後訪問を実施し、手術中の様子や術中管理の視点から臨床推論を活かし、術後の生体反応や疼痛管理等について患者・病棟看護師と共有・看護計画を立案する
- 人工呼吸器装着中看護の支援、人工呼吸器の設定変更及び人工呼吸器からの離脱
RST チーム活動として、麻酔科医師の指示の下人工呼吸器設定変更や人工呼吸器からの離脱の調整、病棟患者の呼吸管理支援を行う。
- 術後鎮痛管理
術後疼痛管理チーム活動として、術後患者の疼痛を早期に評価し、適切な鎮痛方法を選択・調整して安全に痛みを管理する。

令和 7 年度活動実績:(4 月～3 月)

	おもな活動内容
院内	麻酔管理アシスタント ・橈骨動脈ラインの確保 ・経口用気管チューブまたは経鼻用気管チューブの位置の変更 ・侵襲的陽圧換気の設定変更 ・人工呼吸器からの離脱 ・硬膜外カテーテルにおける鎮痛剤の投与量の調整 ・持続点滴中の糖質輸液または電解質輸液の投与量の調整 ・脱水症状に対する輸液の補正
	呼吸療法サポート ・人工呼吸器からの離脱 ・気管切開中の看護の支援 ・新採用看護師対象看護技術研修講師 ・院内スタッフに対する用手換気、ワークショップの実施 ・RST 内での勉強会の実施
	術後疼痛管理チーム ・各部署に疼痛評価スケールの勉強会の実施 ・疼痛評価の記録システムの確立 ・定期ミーティングへの参加 ・術後患者診察・薬剤調整の提案
院外	その他 ・日本呼吸療法学会への参加 ・特定行為研修修了生対症フォローアップ研修参加

【その他の特定行為】

活動目的:

- 医師の包括的指示のもと、専門的判断に基づいて迅速かつ安全に特定行為を実施し、質の高い医療提供に寄与する。
- 患者の状態変化に即応できる支援体制を強化し、医療現場の効率化とチーム医療の推進に貢献する。

役割・機能:

- 末梢留置型中心静脈カテーテル(PICC)の挿入の実施を行う。

令和 7 年度活動実績(10 月～3 月):

	おもな活動内容
院内	特定行為の組織に向けた取り組み ・特定行為マニュアルの作成 ・特定行為手順書の作成 ・立ち上げミーティングへの参加 進学者への支援
	PICC 挿入推進・実施に向けた活動 ・特定行為研修の受講 ・手順書の作成 ・透視室での物品の確認、実施体制の整備 ・画像診断科とのミーティング ・新たに必要な診療材料の確認、会議での承認 ・連絡調整会議、診療科会議でのプレゼンテーション ・関連部署への勉強会の実施 ・PICC 挿入の実施
院外	その他 ・日本呼吸療法学会への参加 ・日本周麻酔期看護医学会への参加 ・日本集中治療医学会への参加

(3) 周麻酔期看護師の活動

活動目的:

麻酔に関わる術前から術後の医療の中で、麻酔科医を中心とした医療チームの一員として機能し、患者にとって最善の麻酔と術前術後管理が施せるように看護師として麻酔業務を補助する。

役割・機能:

- 実践
 - ・麻酔前の評価および麻酔計画の立案をする。
 - ・手術中の麻酔管理を行う。
 - ・術前における麻酔の説明、問診を行う。
 - ・術後の呼吸・循環管理の評価を行う。
 - ・麻酔科医師の代行業務(術前・術中麻酔記録など)を行う。
 - ・手術室・病棟看護師との情報共有を行う。
 - ・術後疼痛管理チームの活動を行う。
- 指導
 - ・麻酔看護の実践を通して役割モデルを示し、必要時には知識・技術の指導を行う。
 - ・周麻酔期における最新情報を持ち、周麻酔期に必要な具体的な指導を行う。
 - ・周麻酔期における教育に主体的に関わる。
- 相談
 - ・麻酔に伴う看護ケアに対して看護スタッフの相談に対応する。

令和 7 年度目標:

- 専門職としての臨床実践の向上を図る。
- 周麻酔期看護師業務の基盤を確立する。

令和 7 年度活動実績:

	主な活動内容
院内	実践 ・手術麻酔補助業務を通しての看護実践 ・ICU での特定行為の実践 ・術後疼痛管理チーム活動の参加 指導 ・手術室、ICU での勉強会の実施 ・各部署に疼痛評価スケールの勉強会の実施 ・4 階東病棟に術後疼痛管理についての勉強会の実施 ・3 階東病棟における術後疼痛管理の質向上のミーティングへの参加 相談 ・各部署からの相談に対応 ・周術期リンクナース会の立ち上げ
院外	その他 ・横浜市立大学大学院クリティカルケア・周麻酔期看護学分野非常勤講師 ・日本看護科学学会への参加 ・日本周麻酔期看護医学会への参加 ・日本集中治療医学会への参加

12 学会・研修会等発表実績

学会名（下段は研究者、○は発表者）	日程
第 66 回日本神経学会学術大会 病院から在宅へ医療処置における連携～ALS 患者の願いを叶えるために、病院の立場から～ ○高野美帆	5/21
第 74 回日本感染症学会東日本地方会学術集会・第 72 回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 「O 抗原9群 <i>Salmonella enterica</i> 菌血症に対し、保健所と連携し <i>Salmonella</i> 属菌同定を行い対応した症例」 ○北川侑、原弘士、小泉晶子、加藤英明	9/25
第 95 回日本感染症学会西日本地方会学術集会・第 73 回日本化学療法学会西日本支部総会合同学会 「感染対策向上加算 2 算定病院における、薬剤師による血液培養介入の効果」 ○原弘士、北川侑、櫻場秀一、山口遥、横山悠香、小泉晶子、加藤英明	11/28
第 7 回日本周麻酔期看護医学学術集会 術後疼痛管理が奏功せず睡眠障害を認めた 1 症例－課題の抽出と今後の示唆 ○眞鍋千恵	2/15

13 院外講師等派遣実績

主催	内容	日程	派遣者
横浜市病院協会看護専門学校	看護管理 関係法規	4月～9月	看護師長
横浜市立大学	周麻酔期看護学演習Ⅰ	4月～3月	周麻酔期看護師
食べる楽しみとケアを考える研修会	食べる楽しみとケアについて	5月8日	摂食・嚥下障害 看護認定看護師
横浜市根岸地域ケアプラザ	オーラルフレイル予防	5月12日、 6月11日、 10月16日	歯科衛生士 摂食・嚥下障害 看護認定看護師
横浜市根岸地域ケアプラザ	根岸健康フェスタ 栄養・口腔・ロコモなどフレイル予防	5月17日	歯科衛生士
湘南看護専門学校	成人看護方法論Ⅲ	6月～10月	脳卒中リハビリ テーション看護 認定看護師
横浜市聖灯看護専門学校	老年看護学Ⅰ	6月9日、 1月15日、 1月22日、 1月29日	摂食・嚥下障害 看護認定看護師
横浜市松風学園	知的障害者施設における摂食嚥下 と介助	6月25日 7月9日	摂食・嚥下障害 看護認定看護師
別所地域ケアプラザ	認知症のある人との関わり方	7月7日	脳卒中リハビリ テーション看護 認定看護師
横浜市屏風ヶ浦地域ケア プラザ	認知症のある方との関わり方	7月7日	脳卒中リハビリ テーション看護 認定看護師
神奈川県立よこはま看護 専門学校	成人看護援助論Ⅱ	7月9日	脳卒中リハビリ テーション看護 認定看護師
磯子区 高齢・障害支援 課	中途障害者支援研修会 脳血管障害のリハビリテーション	7月29日	脳卒中リハビリ テーション看護 認定看護師
横浜市健康福祉局高齢 在宅支援課	中途障害者地域活動センターに関 する検討会	8月～3月	脳卒中リハビリ テーション看護 認定看護師 脳卒中リハビリ テーション看護 認定看護師
神奈川県立よこはま看護 専門学校	基礎看護学 ヘルスアセスメントⅠ	9月5日	山崎 久美

主催	内容	日程	派遣者
横浜市病院協会看護専門学校	地域・在宅看護技術論 口腔ケア	9月22日、28日	摂食・嚥下障害看護認定看護師
鶴見区 高齢・障害支援課	鶴見区脳卒中予防講演会	9月30日	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
医療事故調査・支援センター	医療事故調査制度 10年の報告事例、提言書からの学び～医療事故を繰り返さないために～	10月4日	看護師
横浜市磯子区福祉保健センター	オーラルフレイル予防について	10月6日	歯科衛生士 摂食・嚥下障害看護認定看護師
神奈川県立保健福祉大学	脳血管疾患高齢者の日常生活支援	11月4日、10日、17日、25日	摂食・嚥下障害看護認定看護師 集中ケア認定看護師 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 臨床実習指導者2名
逗子市東部地域包括支援センター	オーラルフレイル予防の普及啓発	10月23日 2月5日	歯科衛生士
磯子区地域介護と看護の会	食事支援の困りごとを考えよう	10月23日	摂食・嚥下障害看護認定看護師
横浜創英大学	ケアの場面展開論	10月30日	摂食・嚥下障害看護認定看護師
大岡地区定期訪問・三者研修部会	認知症について	11月22日	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
横浜市根岸地域ケアプラザ	健康フェスタ@磯子小学校	12月6日	摂食・嚥下障害看護認定看護師 集中ケア認定看護師 看護師
社会福祉法人八王子市社会福祉協議会	予防講演「脳卒中予防」栄養士とコラボ	12月19日	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
横浜市中村地域ケアプラザ	認知症・治療薬について知ろう	2026年1月24日	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師
横浜市中村地域ケアプラザ	感染症予防対策	2026年3月9日	感染管理認定看護師

14 臨地実習受入れ実績

(1) 看護基礎教育

実人数:177 人 延べ人数:1326 人

学校名	実習名	実習期間	学生数	日数	延べ
神奈川県立よこはま看護専門学校	日常生活援助Ⅰ	6/30～7/4	8	5	38
	健康状態別Ⅰ	6/16～6/26	8	9	69
	健康状態別Ⅴ	5/7～16	4	8	32
		7/8～17	5	8	40
		9/1～10	4	8	32
		9/22～10/2	5	8	40
神奈川県立衛生看護専門学校	基礎Ⅱ	1/7～22	8	11	85
	慢性期	2/3～2/18	9	11	99
横浜市病院協会看護専門学校	慢性期	7/22～7/31	4	8	32
		9/1～9/9	4	7	28
	基礎Ⅱ	6/16～6/27	9	9	81
	複合	11/4～11/15	5	9	45
	成人Ⅰ	11/25～12/5	10	8	80
	その他	3/9～13	1	5	5
横浜医師会聖灯看護専門学校	基礎Ⅰ	12/15～19	7	4	28
	基礎Ⅱ	7/14～28	4	11	44
	基礎Ⅲ	11/4～11/19	4	10	40
	成人・老年Ⅰ	1/19～1/30	4	8	32
	地域・在宅論	12/15～16	2	2	4
		12/16～18	2	2	4
		2/3～4	6	2	12
		2/25～26	2	2	4
横浜創英大学	基礎Ⅱ	11/25～12/2	6	6	32
		12/3～12/10	5	6	30
神奈川県立保健福祉大学	高齢者看護	1/13～22	15	8	120
		1/26～2/5	15	8	120
		2/9～2/19	15	8	120
横浜市立大学医学部 (医学生)	福祉施設実習	8/25～29	6	5	30

(2) 認定看護師教育課程

実人数:3 人 延べ 36 人

病院・学校	実習名	学生数	期間	延べ
国立障害者リハビリテーションセンター学院 認定看護師教育課程	脳卒中リハビリテーション看護 認定看護 急性期実習【SCU】	2	12/1～17	24
	脳卒中リハビリテーション看護 認定看護 慢性期実習【5 西】	1	1/7～23	12

第3 看護部の歩み

年度	看護部	病院
平成 11 年度	リハビリテーション看護講習会(平成 8 年から) PPC 体制導入 看護診断導入	8 月 横浜市立脳血管医療センター開院 ICT(感染対策チーム)発足
平成 12 年度	看護学生実習受け入れ	6月 フルオープン(病院 300 床 老健 80 床) 2月 院内ボランティア「ランパスの会」活動開始
平成 14 年度	リハビリテーション看護講習会一時休止	8月 横浜市立病院あり方検討委員会設置(平成 15 年3月に答申)
平成 15 年度		褥瘡対策チーム発足
平成 16 年度		12 月 医療機能検討会議設置 安全管理指導者の専任化 口腔ケアチーム発足
平成 17 年度	4月 リハビリテーション看護講習会再開	〈H17～20 年度 横浜市立病院経営改革計画〉 4月 衛生局から病院経営局へ 地方公営企業法全部適用 ACLS(2次救命処置)チーム発足
平成 18 年度	4月 看護部長、副センター長兼務に就任 11 月 2交代制試行開始	6月 ISO14001「環境負担の軽減」認定取得 1月 院外処方に切り替え 2月 総合相談窓口を設置・CT64 列導入 3月 第1回市民委員会 土曜日リハビリテーション実施
平成 19 年度	4月 看護師長補佐制度の導入 7月 集中ケア認定看護師配置 慢性疾患看護専門看護師配置 11 月 看護診断再導入 アセスメント概念枠組みの変更(ゴードンの機能的健康パターンの活用) 2月 介護福祉士の夜勤導入	11 月 MRI(新型)導入 MACT(モニターアラームコントロールチーム)発足 1月 電子カルテ導入(入院分) 3月 地域医師会と地域医療連携推進委員会発足
平成 20 年度	4月 看護必要度導入 看護師確保担当職員配置 フィッシュ哲学の活用 患者参加型看護計画導入 患者・家族支援システム見直し 7月 集中ケア認定看護師配置(2名)	6月 脳ドックの拡充(週5枠から8枠へ) NST(栄養サポートチーム)発足 3月 病院機能評価受審
平成 21 年度	4月 看護外来(慢性疾患看護 CNS による)設置 リハビリテーション看護講習会から脳卒中リハビリテーション講習会へ改名	〈H21～23 年度 横浜市立病院中期経営プラン〉 4月 24 時間院内保育開始

年度	看護部		病院	
	5月	5S 活動開始	6月	SCU の施設基準取得(3床運用は5月から)
	8月	インターンシップ開始 認定看護師実習受け入れ開始 専門看護師実習受け入れ開始 病棟機能再編成	8月	日本医療機能評価機構 Ver.5.0 認定
	9月	退院計画推進ガイドライン策定 入退院調整担当看護師長業務の検討	10月	SCU を 12 床に拡充(運用は9月から) RST(呼吸サポートチーム)発足 ACLS チームから QST(救急サポートチーム)へ改名 禁煙外来・CPAP 外来開始
	10月	看護診断別標準看護計画の整備		
平成 22 年度	4月	チーフリーダーから看護主任へ改名	4月	急性期看護補助者加算取得 栄養サポートチーム加算算定開始 ペースメーカー植え込み術開始
	8月	摂食・嚥下障害看護認定看護師配置	5月	回復期リハビリテーション 休日・充実加算取得
			8月	糖尿病教育入院の整備
			11月	胃瘻造設術再開
			12月	機械的穿刺摘出術開始(Merci リトリバー使用)
			1月	新年フェスティバル開催
			2月	職員作品展
			3月	東日本大震災発生、災害対策本部設置 「看護師等による静脈注射の実施に関するガイドライン」の改訂
平成 23 年度	4月	東日本大震災 宮城県気仙沼市へ医療チームを派遣	11月	文化祭の開催
	5月	東日本大震災 宮城県気仙沼市へ医療チームを派遣		
	7月	東日本大震災 宮城県気仙沼市へ医療チームを派遣 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師配置		
	3月	第 14 回神奈川看護協会 看護研究奨励賞受賞		
平成 24 年度	4月	キャリア支援室担当者配置(病院経営局) 脳卒中リハビリテーション看護講習会休止	<H24～26 年度 第二次横浜市立病院中期経営プラン>	
	5月	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師配置(計 2 名)	4月	脊椎脊髄外科、脳神経血管内治療科開設
	3月	看護業務基準の見直し 介護福祉士嘱託職員採用(回復期リハビリテーション病棟) 横浜市立病院看護職員人材育成ビジョン制定	10月	3 階・4 階病棟改修工事竣工
			11月	SCU、救急病棟 4 階移設 病棟薬剤師配置
			2月	医療安全ワークショップ開催開始 回復期リハビリテーション病棟入院料1施設基準取得
			3月	手術室(3 室)新設工事竣工

年度	看護部		病院	
平成 25 年度	6 月	感染管理認定看護師配置	4 月	脳卒中・神経疾患センター・脊椎脊髄疾患センター設置 増収・広報・医療サービスプロジェクト設置 3 テスラ MRI と 3 室の手術室稼働開始
	11 月	第 16 回神奈川県看護協会看護研究奨励賞受賞	5 月	3 階東西病棟全床稼働
	1 月	臨床実践能力評価チェック表を、臨床実践能力評価表へ改訂	8 月	5 階東病棟増床工事竣工
	3 月	横浜市立病院看護職員人材育成ビジョン初版発行	9 月	4 階東病棟一部再開
平成 26 年度			10 月	5 階西病棟増床工事竣工
			11 月	5 階回復期リハビリテーション病床全床稼働開始 亜急性期病床運用開始
			12 月	4 階東病棟全床稼働開始夜勤 3:3 体制
			1 月	土曜日 MRI 開始(脳ドック・共同使用)
平成 27 年度	1 月	教育骨子改訂 「教育理念」「教育目的」「教育目標」に改訂	5 月	EOS検査開始
	2 月	キャリアシート運用開始 病棟アルバイトナース配置	6 月	4階西病棟 地域包括ケア病棟運用開始
			7 月	病院機能評価受審(28,29 日) 付加機能評価リハビリテーション機能(回復期)受審(30 日)
			11 月	病院機能評価 認定 3rdG.Ver.1.1 「一般病院 2」副機能種別「リハビリテーション病院」 「付加機能評価 リハビリテーション機能(回復期)」
平成 28 年度			1 月	横浜市立脳卒中・神経脊椎センターへ病院名称変更
	12 月	ナーシングスキル導入		<横浜市立病院 中期経営プラン 2015-2018>
	3 月	看護基準改定、教育基準作成	4 月	病院経営局から医療局 病院経営本部へ シャトルバス運行開始 病院新シンボルマーク決定 手術室・SCU クラーク配置
			8 月	「爆笑！淹頭寄席」開催
平成 29 年度			9 月	EST(救急サポートチーム)発足(QST から名称変更)
			11 月	「地域とつながるシンポジウム」開催
			3 月	「第2回 爆笑！淹頭寄席」開催
	10 月	医療局病院経営本部職員Ⅲ昇任試験(統括)、選考(専任)開始	4 月	DPC開始
平成 30 年度	11 月	慢性疾患看護専門看護師配置(計 2 名) 4 階東病棟 2 交替勤務開始	8 月	第 2 駐車場完成
			9 月	医療情報システム更新に向けたスケジュール開始
			11 月	埋め込み型心臓モニター施行施設届出
	2 月		1 月	新電子カルテシステム運用開始

年度	看護部		病院	
平成 29 年度	7 月	手術看護認定看護師配置	7 月	ICU を HCU に変更
	3 月	横浜市立病院看護職員人材育成ビジョン改訂(Ver.2)	2 月	病院機能評価「期中の確認」
平成 30 年度	4 月	入院前支援業務開始 福島県ふたば医療センターへの看護師派遣(1 年間)	5 月	膝関節疾患手術開始
	7 月	認知症看護認定看護師配置 摂食・嚥下障害看護認定看護師配置(計 2 名)	8 月	ヘルニコア治療開始
	9 月	部署間研修実施	10 月	カードリーダーによる出退勤管理本格実施 LIP.横浜 開催
	10 月	3 西病棟 2 交替勤務開始		
	11 月	HCU2 交替勤務開始		
		改訂版臨床実践能力評価表使用開始		
平成 31 年度 令和元年度	4 月	福島県ふたば医療センターへの看護師派遣(延長・1 年間)	4 月	血管内治療科開設 神経内科から脳神経内科へ改名
	7 月	「勤務帯リーダー像」決定	7 月	病院機能評価3rd.:Ver2.0 受審 「病院ブランド確立プロジェクト」「働きやすい職場プロジェクト」設置
	8 月	看護師長当直から夜勤へ勤務形態変更	8 月	病院設立 20 周年
	10 月	SCU 病棟2交代勤務開始	10 月	「人生の最終段階における医療・ケア(ACP)」策定検討チーム立ち上げ
	2 月	コロナウイルス感染症流行による市民病院 感染症病棟支援(～5 月)	11 月	脳卒中・循環器病対策基本法に基づく「一次脳卒中センター(PSC)」認定 病院設立 20 周年記念植樹
	3 月	横浜市立病院看護管理者マネジメントラダー策定	1 月	病院機能評価3rd.:Ver2.0 認定
令和 2 年度	4 月	看護部ユニフォームスクラブ導入 入退院支援担当係長配置 福島県ふたば医療センターへの看護師派遣(1 年間)	5 月	新型コロナウイルス感染症流行に伴う面会制限
	5 月	旧市民病院でのコロナウイルス感染症患者 宿泊療養施設への支援(6 月まで)		
	7 月	3 階西病棟 PNS®本格実施		コロナ陽性軽症者の受け入れ開始(2床)
	8 月	臨時実習受け入れ停止	8 月	認知症サポートチーム(DST)運用開始
	9 月	看護研究 リモート面接開始	11 月	脳卒中・循環器病対策基本法に基づく「一次脳卒中センター(PSC)」コア施設活動
	11 月	横浜市立病院看護職員人材育成ビジョン改訂(Ver.2.1)	1 月	4階東病棟をコロナ陽性患者受け入れ病床 へ施設基準変更
令和 3 年度	3 月	看護管理者マネジメントラダー導入		
	4 月	看護補助者担当会の設置	4 月	診療科再編
	6 月	勤務帯毎のユニホーム色変更導入	5 月	入院患者用 Wi-Fi 導入 オンライン面会の実施

年度	看護部		病院	
	8 月	感染拡大によりインターンシップ中止 3 東病棟 PNS®試行実施		医療関係者向け新型コロナワクチン接種実施
	10 月	4 西病棟・SCU PNS®試行実施 看護管理者シャドーイング研修開始 看護部公開講座の ZOOM 配信実施	11 月	心臓リハビリテーション開始
	12 月	外来 2 交替勤務開始 出向体制・応援体制の整備(SSS-P) 訪問看護ステーション研修の開始		
令和 4 年度	4 月	認知症ケアリンクナース会発足 HCU PNS®試行実施	7 月	地域包括ケア病棟の看護補助者配置加算取得
	5 月	看護管理者コンピテンシーモデル導入	9 月	施設基準等に係る適時調査の実施
	6 月	病床ミーティング試行開始	10 月	入院基本料2届出
	7 月	変形労働時間制の導入	11 月	在宅療養後方支援病院届出
	10 月	特定看護師の配置(手術部)	12 月	市民講座「膝の痛み 脳卒中」開催
	11 月	手術看護認定看護師(B 課程)配置	1 月	「ロケットプロジェクト」始動
	12 月	PNS®監査の実施(3 東西・4 西・SCU)	2 月	医療機能評価「期中の確認」 看護必要度Ⅱへ移行 排尿ケアチーム発足
	2 月	看護部理念の改訂 PNS®監査の実施(HCU・手術部) 5 東・西病棟 PNS®試行実施	3 月	横浜市立病院中期経営計画(2023-2027)の策定
	3 月	看護部中期目標(2023-2027)の策定 インターンシップ受入れ再開		
令和 5 年度	4 月	周麻酔期看護師 活動開始	5 月	コロナウイルス感染症 5 類移行により、面会再開
	5 月	主任看護師会 活動開始 市民病院への実務研修へ職員を派遣	6 月	病院機能評価(3rdG:Ver.3.0)更新審査準備開始
	9 月	PNS® 外部監査 実施 上山先生	8 月	子供アドベンチャーカレッジ事業受入れ
	10 月	夜勤専従看護師導入開始	11 月	ふるさと納税による脳ドック受付開始(ロケットプロジェクト)
	12 月	市民病院への実務研修へ職員を派遣		
	1 月	認知症看護認定看護師配置(計 1 名) HCU と救急外来との夜勤連携開始		
	2 月	SCU と 4 階西病棟との夜勤連携開始		
令和 6 年度	4 月	横浜市立病院看護職員人材育成ビジョン改訂(Ver.2.2)	11 月	病院機能評価3rd.:Ver3.0 受審 術後疼痛管理チーム活動開始
	5 月	HCU から ICU へ施設基準を変更 ジェネラリスト対象「きらり☆ワイスター研修」を開始	2 月	電子カルテシステム更新
	6 月	神奈川県看護協会オープンセミナーへの参加開始		
	9 月	PNS® 外部監査 実施 上山先生		
令和 7 年度	4 月	手術室、ICU、外来の体制変更	4 月	MCI・認知症センター設立
	7 月	周麻酔期看護師2名配置 中堅対象「New!キャリア研修」を開始	6 月	病院 DX 戦略策定 血管撮影室装置更新

年度	看護部	病院
	10月 地域包括ケア病棟による医療的ケア児(者) 1月 のレスパイト入院事業開始 特定行為研修修了看護師による PICC 挿入 開始	8月 水頭症センター設立 1月 コンビニエンスストア オープン

横浜市立脳卒中・神経脊椎センター 看護部概要

発行:2026 年 7 月

編集:横浜市立脳卒中・神経脊椎センター看護部

〒235-0012

横浜市磯子区滝頭 1-2-1

TEL:045-753-2500

FAX:045-753-2859

<http://www.city.yokohama.lg.jp/byoin/nou/>

無断転用を禁ず。